

園だより



令和6年10月1日

社会福祉法人新田保育園

園長 大西 陽子

前へ進む力

5歳児ぞう組がリレーをしていた時のこと。負けたチームの子どもたちから次々に言葉が飛び出します。「ころんだからまけた」「バトンわたすところで、ちゃんとキャッチできなかったからおそくなった」「ぬかさねなければ、かてたのに」やり場のない悔しさで一様に視線を落とし、どんよりとした空気が立ち込めますが、しばらくすると「じゃあ、どうする?」と1人が顔をあげました。すると「ころばない」「ころんでもすぐにたつ」「(相手がバトンを) ちゃんともってからはなす」「うちがわをはしたら、ぬかさねない」「うでをふったら、はやくはしれる」「いっばいたべて、きんにくつければはやくなる」いつの間にか真剣な眼差しで、次に勝つための作戦会議となっていました。また別の日、走る順番を決めていた時のこと。相手チームより1人少なかったため、「はい! A、2かいはしりたい!」「えー、Bがいいとおもう」「じゃあ、きょうそうしてみれば?」走ってみるとBの勝ち。「Bが2かいはしりたい」「あー、Aはしりたい」「あのね、はしりたいじゅんぼんじゃないの! かつためのじゅんぼんきめてるの!」「はやいひとが2かいはしったほうがかてるでしょ」ムッと怒った表情の後、うつむくA。けれど、こぼれ落ちそうな涙を振り払うように「それじゃあ、Aはなんぼんはしればいいのか?」と言いました。相手チームの順番を予想したり、インコースを取るためにじゃんけんの強い子を1番にしたり、どの順番にすれば勝てるのか、子どもたちだけで話し合いが進んでいきました。

初めは勝ち負けがはっきりした遊びを好まない子も少なくなく、特に個人戦で勝敗が決まるゲームはしないと決めている子もいたほどです。けれど、チーム対抗の遊びを繰り返すうちに、勝った時の嬉しくて楽しい気持ちが大きくなっていきました。負けた時には言い争いになることもありますが、それはやがて敗因の振り返りとなり、次に勝つための話し合いへとつながっていきました。時に、それは相手が傷ついてしまうのではないかと大人が危惧するような鋭い言葉も、子どもたちは客観的に捉え、勝つという共通の目的のために話が進んでいきます。文句や悪口ではなく事実として受け止め、1人ではどうにもならないことも、みんなとなら越えられるかもしれない。そのためにいいところも難しいところも伝えあって補い合う。だから、勝った時の喜びはみんなの喜びになるのです。

この力はリレーに限らず、生活や遊びの様々な場面で見られます。つまずいた時、失敗した時、困った時、うつむいていると誰かが「どうしたの?」と声をかけます。目的(目標)は何か、なぜこうなったのか(振り返り)、目的のために次はどうすればいいか。トライアンドエラーを繰り返しながら、みんなを着実に前進しています。

(文責: 須田 千鶴子)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	
	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	
10月	頭 ジラ ミチ チェック				運動会		りす 組個人 面談週 間	健康 体育 (3・4 ・5歳 児)			誕生会 ・写真 の日				避難 訓練	健康 診断 (0・2 歳児)	いも ほり 遠足 (4・5 歳児)				ことり 組個人 面談週 間				冬まつり 集会①			どての こまつり				土手 写真の 日